

Sun Fire X4470 サーバー

Linux オペレーティングシステムインストールガイド



Copyright © 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



Adobe PostScript

目次

このマニュアルの使用方法 vii

部 I x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール

1. Sun Installation Assistant (SIA) を使用した補助付き OS インストール 3
 - SIA 作業の概要 4
 - SIA の入手方法 4
 - SIA のドキュメントリソース 4
2. はじめに 5
 - サポートされる Linux オペレーティングシステム 6
 - Linux インストールの前提条件 6
 - Linux のインストール作業の概要 8
 - SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA 9
3. Oracle Enterprise Linux のインストール 11
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール 12
 - インストールを開始する前に 12
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール 13

- PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール 17
 - インストールを開始する前に 17
 - ▼ PXE ネットワーク起動を使用した OEL 5 のインストール 18
 - OEL のインストール後の作業 19
 - TPM のサポートの設定 19
 - OEL の登録と自動更新の有効化 19
- 4. SUSE Linux Enterprise Server のインストール 21
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール 22
 - インストールを開始する前に 22
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール 23
 - PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 のインストール 30
 - インストールを開始する前に 30
 - ▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 11 のインストール 31
 - SLES のインストール後の作業 32
 - SLES オペレーティングシステムの更新 32
 - ▼ SLES オペレーティングシステムの更新 32
 - TPM のサポートの設定 33
- 5. Red Hat Enterprise Linux のインストール 35
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール 36
 - インストールを開始する前に 36
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール 37
 - PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5 のインストール 40
 - インストールを開始する前に 40
 - ▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL 5 のインストール 41
 - RHEL のインストール後の作業 42
 - RHEL の登録と自動更新の有効化 42
 - TPM サポートの設定 42

部 II Linux システム管理者のための参照情報

- A. サポートされるインストール方法 45
 - コンソール出力 45
 - インストール起動メディア 46
 - インストール先 49

- B. サポートされているオペレーティングシステム 51
 - サポートされているオペレーティングシステム 52

- C. 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定 53
 - BIOS の出荷時デフォルト設定の確認 53
 - インストールを開始する前に 54
 - ▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集 54

- D. Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード 57
 - ISO イメージのダウンロード手順 57
 - ▼ Tools and Drivers DVD イメージのダウンロード 57

- 索引 59

このマニュアルの使用法

この Linux オペレーティングシステムのインストールガイドでは、Oracle の Sun Fire X4470 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールして構成する方法について説明します。このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (Authorized Service Provider, ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

- [vii ページの「製品情報」](#)
- [viii ページの「関連ドキュメント」](#)
- [ix ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」](#)
- [ix ページの「ドキュメントのフィードバック」](#)
- [x ページの「製品のダウンロード」](#)

製品情報

Sun Fire X4770 サーバーの詳細については、次の Web サイトにアクセスしてください。
(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

このサイトには、次の情報とダウンロードにアクセスするためのリンクが含まれています。

- 製品情報および仕様
- サポートされているオペレーティングシステム
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード
- サポートされているオプションカード
- 外部ストレージオプション
- 消費電力計算機

関連ドキュメント

次の表に一覧表示する関連マニュアルは、オンラインで利用できます。

(<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4470#hic>)

| タイトル | コンテンツ | Part No. | 形式 |
|---|--|--|--------------------|
| 『Sun Fire X4470 サーバ ご使用にあたって』 | サーバーに関する最新情報 | 821-2385 | PDF HTML |
| 『Sun Fire X4470 Server Getting Started Guide』 | サーバーのセットアップに関 する基本的なインストール情報 | 821-0333 | PDF 印刷 |
| 『Sun Fire X4470 サーバ 設置マニュアル』 | サーバーのセットアップに関 する詳細なインストール情報 | 821-2370 | PDF HTML 印刷物 |
| 『Sun Fire X4470 サーバ Linux オペレーティングシス テムインストールガイド』 | Linux オペレーティングシステ ムのインストール手順 | 821-2379 | PDF HTML |
| 『Sun Fire X4470 サーバ Windows オペレーティン グシステムインストールガ イド』 | Windows Server オペレーティン グシステムのインストール手順 | 821-2376 | PDF HTML |
| 『Sun Fire X4470 サーバ サービスマニュアル』 | サーバーの保守とアップグレー ドに関する情報と手順 | 821-0703 | PDF HTML |
| 『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User’s Guide for x64 Servers』 | Windows および Linux オペレ ーティングシステムをインス トールするための Sun Installation Assistant の使用手順 | 821-0694 | PDF HTML |
| 『Oracle x86 サーバ診断 ガイド』 | サーバーの診断およびトラブル シューティングに関する情報 | 820-6750 | PDF HTML |
| 『Sun Server CLI ツールお よび IPMItool 2.0 ユーザ ズガイド』 | x86 サーバに共通のアプリ ケーションおよびユーティリ ティの使用法に関する情報 | 821-1600 | PDF HTML |
| Oracle Integrated Lights Out Manager 3.0 マニュアルセット (以前の Sun Integrated Lights Out Manager マニュアルセット) | ILOM 3.0 をサポートするサー バとおよびサーバモジュ ールに共通の ILOM 機能とタスク についてのドキュメント | 820-7382 820-7370 820-7373 820-7376 820-6413 | PDF HTML |

| タイトル | コンテンツ | Part No. | 形式 |
|--|---|----------|-------------|
| 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4470 サーバー』 | Sun Fire X4470 サーバーに固有の ILOM 3.0 に関する情報 | 821-2388 | PDF HTML |
| 『Sun Fire X4470 Safety and Compliance Guide』 | サーバーに対するハードウェアの安全性および適合性の情報 | 821-0705 | PDF |
| Sun ハードウェアシステムの重要な安全性に関する情報 | ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関するすべての Sun 製ハードウェアシステム向けの多言語情報 | 821-1590 | 印刷 |

これらのドキュメントの一部については、この表の上に記載されている Web サイトで翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

- マニュアル: (<http://docs.sun.com>)
- サポート: (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング: (<http://www.sun.com/training/>)

ドキュメントのフィードバック

コメントは、(<http://docs.sun.com>) で「Feedback[+]」リンクをクリックしてお送りください。ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Fire X4470 サーバー Linux オペレーティングシステムインストールガイド、Part No. 821-2379-10

製品のダウンロード

最新のソフトウェア製品をダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.oracle.com/goto/x4470>

このサイトには、次の項目にアクセスできるリンクがあります。

- Tool and Driver DVD イメージ
- Sun Installation Assistant DVD イメージ
- Sun Validation Test Suite (SunVTS) の更新プログラム

部 I x86 サーバーへの Linux ソフトウェアのインストール

ここでは Oracle の Sun Fire X4470 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする方法についてのトピックをリストします。

| 説明 | リンク |
|---|---|
| 初心者または経験を積んだユーザー : SIA を使用して Linux オペレーティングシステムの補助付きインストールを実行します。SIA は、適切なシステムドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアを提供します。 | 第 1 章 Sun Installation Assistant (SIA) を使用した補助付き OS インストール |
| 経験を積んだユーザー : Linux オペレーティングシステムと必要なシステムドライバを手動でインストールします。 | <ul style="list-style-type: none">• 第 2 章 概要• 第 3 章 Oracle Enterprise Linux のインストール• 第 4 章 SUSE Enterprise Linux のインストール• 第 5 章 Red Hat Enterprise Linux のインストール |
| 参照情報 : これらのトピックを必要に応じて参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了します。 | <ul style="list-style-type: none">• 付録 A インストール方法• 付録 B サポートされているオペレーティングシステム• 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定• 付録 D Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード |

第1章

Sun Installation Assistant (SIA) を使用した補助付き OS インストール

SIA を使用すると、オペレーティングシステムのインストールが容易になります。SIA を利用する場合、準備が必要なものは、サーバーでサポートされている Linux または Windows OS ディストリビューションメディアのライセンスを受けたコピーだけです。ソフトウェアや必要となるサーバー固有のドライバは、すべて SIA によって提供されます。グラフィカルなウィザードのインタフェースと柔軟なインストールオプションにより、SIA はサーバーの配備を簡単にし、配備の速度と信頼性を向上させます。

SIA を使用するには、単純にサーバーの CD ドライブ、USB フラッシュドライブ、またはネットワークイメージから SIA プログラムを起動します。利用可能な SIA の最新のアップデートを確認してください。使用する OS のディストリビューションをメニューから選択し、画面に表示される指示に従います。SIA はシステムをスキャンして、サーバーコンポーネントを設定するために必要なドライバがあることを確認します [1]。また、利用可能な最新のドライバを SIA から確認するオプションも用意されています。SIA は、必要なときに適切なメディア、または OS のインストール中に必要なその他の情報 (ライセンスキーなど) の入力を要求します。

注 - [1] 一部のオプションカードのドライバは、サーバーにはダウンロードされますが、手動によるインストールが必要となります。SIA は定期的に機能強化されているため、SIA の情報ページで最新の SIA のアップデートとサポートされる機能を確認するようにしてください (<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>)。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 4 ページの「SIA 作業の概要」
- 4 ページの「SIA の入手方法」
- 4 ページの「SIA のドキュメントリソース」

SIA 作業の概要

SIA を使用して、次の作業を実行できます。

注 – 次に示す OHIA のインストールおよび回復作業のサポートはサーバーに依存し、サーバーによって異なる場合があります。

- Oracle の Sun x86 サーバーへの Linux または Windows オペレーティングシステムのインストールの実行。SIA から適切なドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアが提供されるため、ドライバディスクを別に作成する必要がありません。
- 内部ストレージデバイスでの RAID-1 ボリュームの作成 (オプション)。
- システムの Integrated Lights Out Manger (ILOM) サービスプロセッサ (Service Processor, SP)、BIOS、およびストレージデバイスのファームウェアのアップグレード (サーバーの OS にかかわらず)。オプション)。
- 最新のファームウェアとドライバによる SIA セッションの更新 (オプション)。
- 破損しているかアクセス不能の ILOM サービスプロセッサの回復 (オプション)。

SIA の入手方法

SIA はほとんどの x86 Oracle サーバープラットフォームに付属しており、CD フォーマットまたは Web ダウンロードで利用できます。OS の最新のバージョンをサポートするように、定期的なアップデートを利用できます。各プラットフォームサーバー用の最新バージョンの SIA は、次の Web サイトからダウンロードできます。

(<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>)

SIA のドキュメントリソース

SIA を使用して x86 サーバーに Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、次のリソースで詳細なインストール手順とフォーラムのディスカッションを参照してください。

- 『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for x64 Servers』
(<http://docs.sun.com/app/docs/prod/install.x64svr?l=en&a=view>)
- Sun BigAdmin の機能に関する記事: Sun Installation Assistant の使用方法
(http://www.sun.com/bigadmin/features/articles/install_assistant.jsp)

第2章

はじめに

この章では、Linux オペレーティングシステムをサーバーに手動でインストールする方法の概要について説明します。

注 – この場合の「手動」とは、Sun Installation Assistant (SIA) を使用せずに、このガイドで説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。SIA を使用して補助付きの Linux インストールを実行する場合は、このマニュアルの第 1 章を参照してください。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 6 ページの「サポートされる Linux オペレーティングシステム」
- 6 ページの「Linux インストールの前提条件」
- 8 ページの「Linux のインストール作業の概要」

サポートされる Linux オペレーティングシステム

Sun Fire X4470 サーバーは、次の Linux オペレーティングシステムをサポートしています。

| Linux OS | 版 |
|----------|-------------------------------------|
| Oracle | x86 版 Enterprise Linux 5.5 (64 ビット) |
| SUSE | Linux Enterprise Server 11 (64 ビット) |
| RedHat | x86 版 Enterprise Linux 5.5 (64 ビット) |

Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムの最新リストについては、次の Web サイトにアクセスして、オペレーティングシステムのリンクに移動してください。

(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

Linux インストールの前提条件

サーバーへの Linux オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件

| 要件 | 説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|--|---|--|
| サーバーがセットアップされ稼働している | サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。 | • 『Sun Fire X4470 サーバー設置マニュアル』 (821-2370) |
| Linux インストールプログラムを起動できるように配備方法が設定されている | Linux オペレーティングシステムのインストールを配備するためのガイドライン。 | • 付録 A |
| RAID ボリュームの作成 | 起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。Linux をインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。 | • 『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』 (http://www.lsi.com/support/sun/) |

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件 (続き)

| 要件 | 説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|--|--|---|
| OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証 | Linux オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認する必要があります。 | <ul style="list-style-type: none"> • 付録 C |
| Linux ベンダーのドキュメント | Linux のインストールに適切なベンダーのドキュメントを入手します。 ベンダーのドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。 | <ul style="list-style-type: none"> • (http://www.oracle.com/technology/documentation/index.html) • (http://www.novell.com/documentation/suse) • (http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/) |
| Tools and Drivers DVD | サーバーに付属している Tools and Drivers DVD を用意する必要があります。 | <ul style="list-style-type: none"> • (http://www.oracle.com/goto/x4470) |
| SLES 11 - LSI ストレージのフロッピーイメージまたはフロッピーディスクの準備 | SLES 11 のインストールメディアには、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA オプションカード (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) 用の LSI デバイスドライバが含まれていません。これらの SAS PCIe HBA オプションカードがインストールされている場合は、インストール中にフロッピーイメージまたはフロッピーディスクから、HBA オプション用の LSI 外部ストレージドライバをマウントする必要があります。 | <ul style="list-style-type: none"> • 9 ページの「SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」 |
| 最新情報の入手 | 『Sun Fire X4470 サーバーご使用にあたって』を参照して、サポートされるオペレーティングシステムソフトウェアとパッチに関する最新情報を入手します。 | <ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4470 サーバーご使用にあたって』 (821-2385) |

Linux のインストール作業の概要

Linux オペレーティングシステムをインストールするには、次に示す作業をすべて順番に実行します。

1. Linux オペレーティングシステムのインストールメディアとドキュメントを入手します。Linux のインストールプログラムは、適切なベンダーの Web サイトからダウンロードできます。たとえば、次の Web サイトを利用できます。

- Oracle Enterprise Linux の場合: (<http://edelivery.oracle.com/linux>)
- SUSE Linux Enterprise Server の場合: (<http://www.novell.com>)
- Red Hat Enterprise Linux の場合: (<http://www.redhat.com>)

2. 必要な場合は、提供されている Tools and Drivers DVD を入手するか、[付録 D](#) の説明に従ってサーバーの最新ドライバをダウンロードします。

SLES 11 をインストールするときに、サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA カードがインストールされている場合は、SLES 11 のインストールを実行する前に、HBA オプションカード用の LSI ストレージドライバをフロッピーディスクまたはフロッピーイメージにコピーする必要があります。詳細は、[9 ページの「SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」](#)を参照してください。

3. [付録 A](#) を参考にして、Linux を配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. 次の節で説明する手順に従って、Linux Server オペレーティングシステムの手動インストールを実行します。
 - Oracle Enterprise Linux の場合: [第 3 章](#)
 - SUSE Linux Enterprise Server の場合: [第 4 章](#)
 - Red Hat Enterprise Linux の場合: [第 5 章](#)
5. 次の節で説明するオペレーティングシステムに固有の手順に従って、インストール後の作業を実行します。
 - [19 ページの「OEL のインストール後の作業」](#)
 - [32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)
 - [42 ページの「RHEL のインストール後の作業」](#)

SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

SLES 11 インストールメディアには、表 2-2 に示す SAS PCIe HBA オプションカード用の LSI 外部ストレージドライバが含まれていません。

注 – 本書の発行時点では、一部の PCIe HBA オプションカードが購入できない場合があります。Sun Fire X4470 サーバーでサポートされている購入可能な HBA オプションカードを確認するには、次の Web サイトにアクセスし、該当するページを参照してください。(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

表 2-2 SLES 11 用の LSI 外部ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

| SAS PCIe HBA オプション | オプション番号 | インストール中に必要なドライバ |
|-------------------------------------|---------------|------------------------|
| Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵) | SG-SAS6-INT-Z | LSI Adapter SAS Falcon |
| Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (外付け) | SG-SAS6-EXT-Z | LSI Adapter SAS Falcon |

表 2-2 に示す SAS PCIe HBA オプションカードのいずれかが取り付けられているサーバーに SLES 11 をインストールする場合は、SLES 11 のインストール処理中に、HBA オプション用の LSI 外部ストレージドライバをフロッピーディスクまたはフロッピーイメージからマウントする必要があります。

SLES 11 のインストールを開始する前に、次のいずれかの方法で LSI 外部ストレージドライバのフロッピーディスクまたはフロッピーイメージを準備してください。

- **フロッピーディスクをマウントする。** Tools and Drivers DVD にある LSI ストレージのフロッピーイメージを使用します。続いて、ILOM リモートコンソールからフロッピーディスクをデバイスとしてマウントします。
- **フロッピーイメージをマウントする。** Tools and Drivers DVD にある LSI ストレージのフロッピーイメージをネットワーク上の場所にコピーし、このフロッピーイメージを Sun ILOM リモートコンソールからマウントします。

Tools and Drivers DVD 上の LSI ストレージのフロッピーイメージは、次のディレクトリにあります。Linux/SLES/SLES11/FloppyImages/64bit

SLES 11 のインストール中に LSI 外部ストレージドライバを読み込む手順については、23 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」の手順 6 で説明します。

Tools and Drivers DVD をお持ちでない場合は、Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードできます。詳細は、付録 D を参照してください。

注 – SLES 11 のインストールメディアには、Sun Storage SAS PCIe RAID HBA オプションカードの SG-SAS6-R-INT-Z および SG-SAS6-R-EXT-Z で必要な LSI 外部ストレージドライバが含まれています。

第3章

Oracle Enterprise Linux のインストール

この章では、x86 (64 ビット版) 用の Oracle Enterprise Linux 5 (OEL 5) を Sun Fire X4470 サーバーにインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに Oracle Enterprise Linux (OEL) オペレーティングシステムをインストールする場合は、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。SIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、[第 1 章](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [12 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール」
- [17 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール」
- [19 ページ](#)の「OEL のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール

次の手順では、OEL オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから OEL のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- OEL 5.5 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- OEL 5.5 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[17 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール」](#) で手順を確認してください。

OEL のインストール方法については、OEL のドキュメントを参照してください。

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[19 ページの「OEL のインストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール

1. インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle 5.5 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。Oracle 5.5 ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー -> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[46 ページの「インストール起動メディア」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、OEL のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

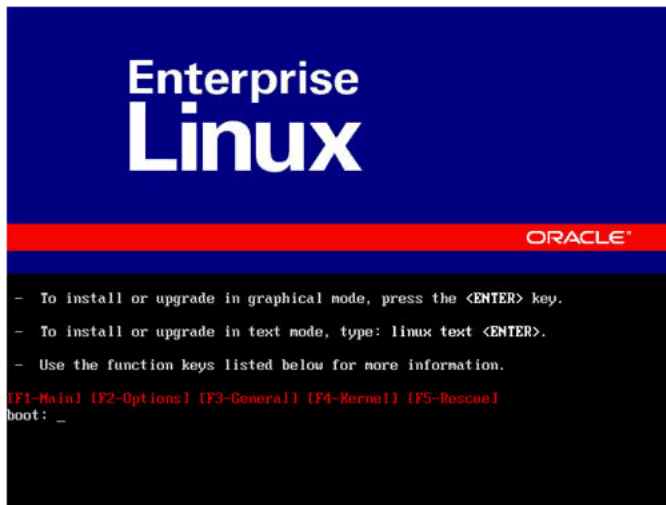
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID で構成されています。

数秒後、OEL 5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

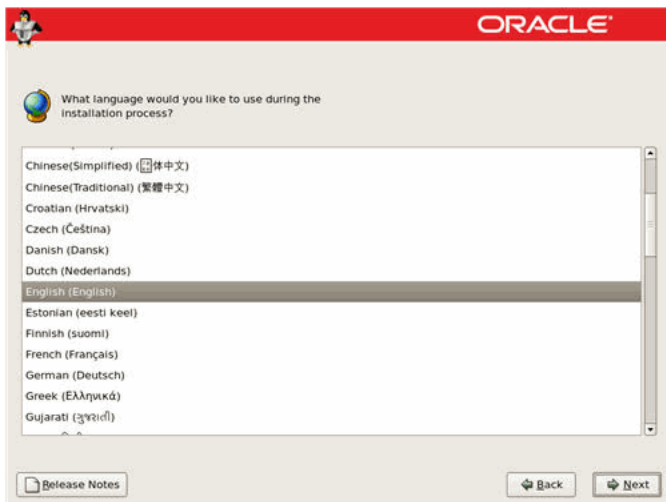
- Oracle Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

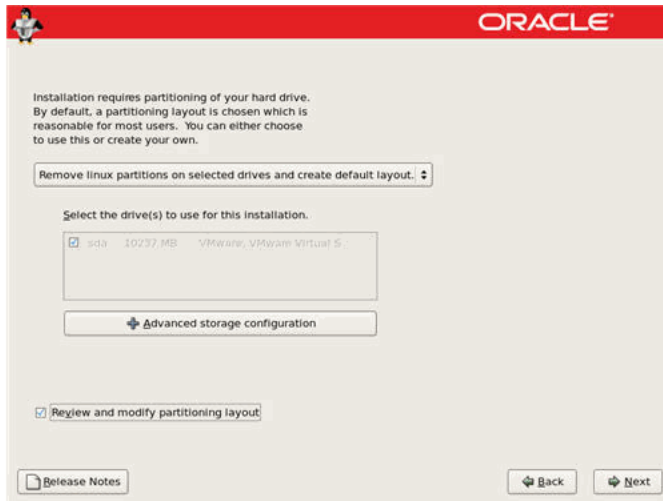


- 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。



「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面が表示されます。

7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で、適切なインストール方法 (「Local CDROM」または「NFS Image」) を選択し、「OK」をクリックします。
「CD が見つかりました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD が見つかりました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Oracle Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Oracle Enterprise Linux 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。
11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、インストール番号を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「Remote Linux partition on selected drives and create default layout (選択したドライブの linux パーティションを削除して、デフォルトのレイアウトを作成)」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout (カスタムレイアウトを作成)」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「Next (次へ)」をクリックします。



- b. Oracle のディスクパーティション設定の画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Oracle Solaris OS がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除するか、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

13. 画面上の指示と Oracle のドキュメントに従って、Oracle インストールの基本設定を続行します。
14. Oracle インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. システムで自動更新を設定します。
詳細は、Oracle のドキュメントを参照してください。
 - b. 必要な場合は、OEL 5.5 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。
詳細は、Oracle のドキュメントを参照してください。
 - c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
[19 ページの「OEL のインストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から OEL 5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- OEL 5.4 CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- OEL 5.4 の ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle Linux のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できません。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

インストールを開始する前に

OEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

詳細は、次の Web サイトで Oracle Enterprise Linux 5.4 の PXE ネットワークのインストール手順を参照してください。

(<http://www.oracle-base.com/articles/linux/PXENetworkInstallations.php>)

▼ PXE ネットワーク起動を使用した OEL 5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、OEL のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- **ローカルサーバー**の前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、[13 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール」](#)の手順 5 を参照してください。

OEL のインストール後の作業

OEL のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 19 ページの「TPM のサポートの設定」
- 19 ページの「OEL の登録と自動更新の有効化」

TPM のサポートの設定

Oracle Enterprise Linux に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするように Sun Fire X4470 サーバーを設定する必要があります。手順については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』を参照してください。(821-0703)

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、Oracle Enterprise Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

OEL の登録と自動更新の有効化

OEL をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、Oracle Enterprise Linux のサポート。

(<http://www.oracle.com/support/purchase.html>)

第4章

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

この章では、x86 (64 ビット版) 用の SUSE Linux Enterprise Server 11 (またはそれ以降のリリース) を Sun Fire X4470 サーバーにインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムをインストールする場合は、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。SIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、[第 1 章](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [22 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」
- [30 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 のインストール」
- [32 ページ](#)の「SLES のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール

次の手順では、SLES 11 オペレーティングシステムをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから SLES 11 のインストールメディアを起動することを前提としています。

- SLES 11 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[30 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 のインストール」](#)で起動手順を確認してください。

ローカルまたはリモートのメディアを使用して SLES 11 をインストールする手順については、次のトピックを参照してください。

- [22 ページの「インストールを開始する前に」](#)
- [23 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」](#)

SLES 11 のインストール方法については、次の Novell の Web サイトにある SUSE Linux Enterprise Server のマニュアルセットを参照してください。
(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- このオペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、SLES インストールメディアを起動するためのインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES 11 起動ディスク (CD #1 または DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。SLES 11 ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Devices」メニュー->「CD-ROM Image」)。

インストールメディアを設定する方法については、付録 A を参照してください。

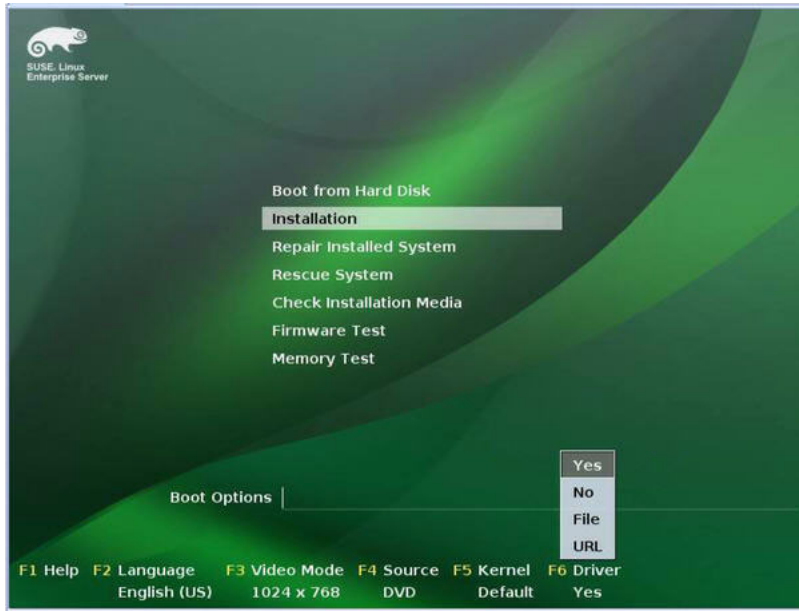
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」->「Remote Power Control」の順に選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、SLES のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。
数秒後、最初の SUSE 起動画面が表示されます。



5. 最初の SUSE 起動インストール画面で、次のいずれかの操作を行います。

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA 構成 (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) を備えていないシステムでは、Tab キーを使用して 2 番目のオプションの「Installation (インストール)」を選択し、Enter キーを押します。

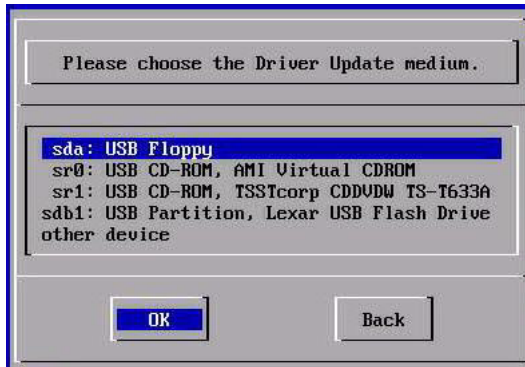
「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。手順 7 に進みます。

または

- Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) 構成を備えたシステムでは、F6 キーを押して適切な LSI 外部ストレージドライバを読み込みます。

「Driver Update Medium」ダイアログが表示されます。手順 6 に進みます。

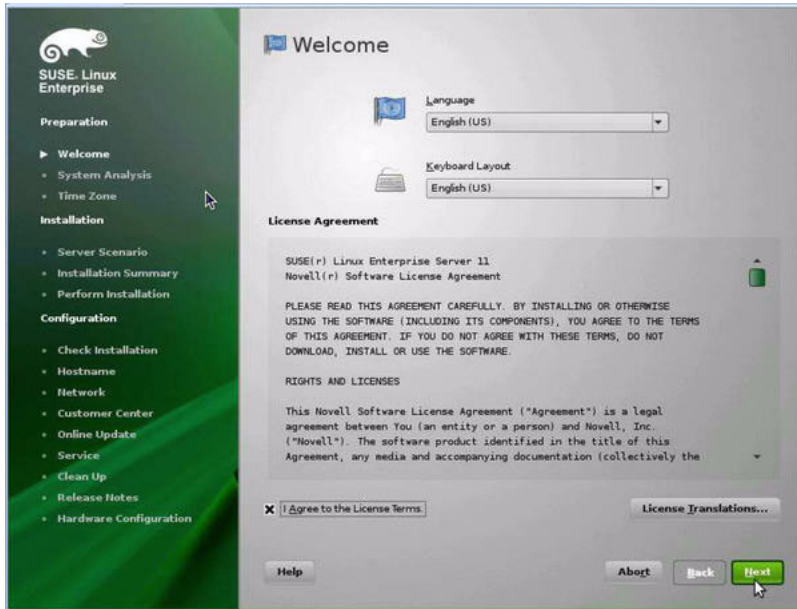
注 – SLES 11 のインストールを開始する前に、LSI 外部ストレージドライバを読み込むためのフロッピーストレージメディアをマウントしておくようにしてください。インストールの前に LSI フロッピーストレージメディアをマウントする方法については、9 ページの「SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」を参照してください。



6. (SAS PCIe HBA 構成の LSI ストレージドライバのみ) 次の手順を実行して、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA オプションカード (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) の LSI 外部ストレージドライバを読み込みます。
 - a. 「Driver Update Medium (ドライバ更新メディア)」ダイアログで、LSI フロッピーストレージイメージがマウントされているメディアを選択し、「OK」をクリックします。

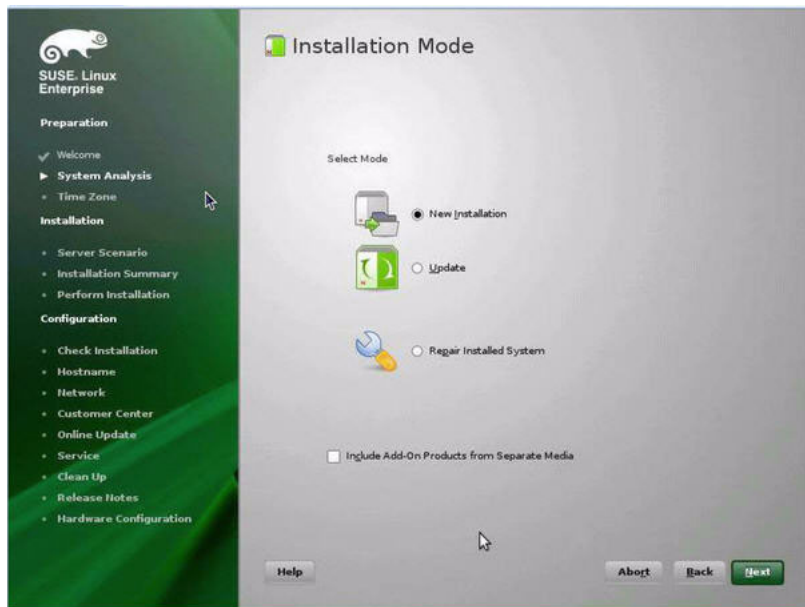
ドライバが読み込まれ、「Driver Update Medium」ダイアログが表示されます。
 - b. 「Driver Update Medium (ドライバ更新メディア)」ダイアログで「Back (戻る)」をクリックします。

インストールの読み込み中を示すメッセージが表示され、続いて SUSE の「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

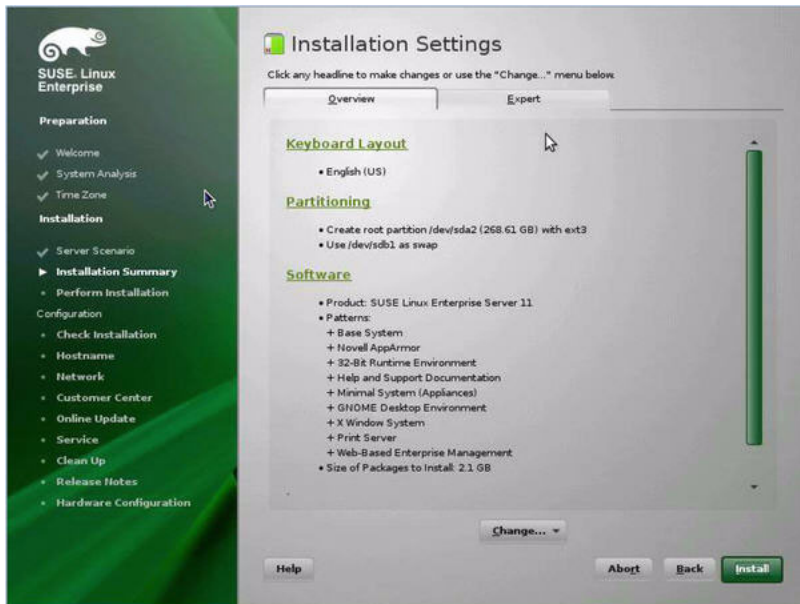


7. 「Welcome (ようこそ)」画面で、次の手順を実行します。

- 適切な言語を選択します。
- キーボードレイアウトを選択します。
- 使用許諾契約を読み、「I Agree to the License Terms」のチェックボックスをオンにします。
- 「Next (次へ)」をクリックします。
「システムプローブ (System Probing)」画面に進行状況バーが表示されます。システムの分析が完了したら、「Yast インストールモード (Yast Installation Mode)」画面が表示されます。



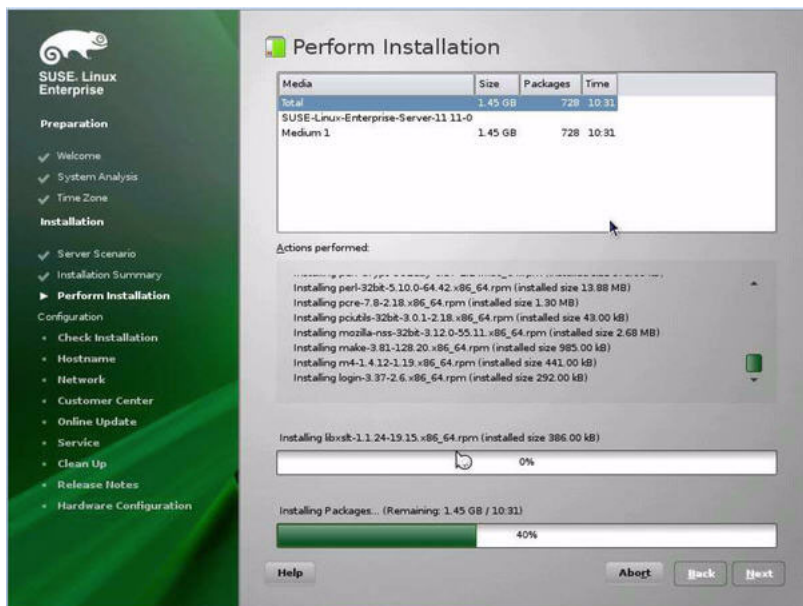
8. 「Installation Mode (インストールモード)」画面で「New Installation (新規インストール)」を選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
「時刻とタイムゾーン (Clock and Time Zone)」画面が表示されます。
9. 「Clock and Time Zone (時刻とタイムゾーン)」画面で、適切な地域とタイムゾーンを選択して、「Next (次へ)」をクリックします。
「サーバーベースシナリオ (Server Base Scenario)」画面が表示されます。
10. 「Server Base Scenario (サーバーベースシナリオ)」画面で「Physical Machine (物理マシン)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。
「インストール設定 (Installation Settings)」画面が表示されます。



11. 「インストール設定 (Installation Settings)」画面で、次の手順を実行します。
 - 「Next (次へ)」をクリックして、表示されているインストール設定を受け入れます。
または
 - 「Change (変更)」をクリックして設定を編集し、「Next (次へ)」をクリックしてインストール設定を受け入れます。

注 - カスタムパーティションの作成方法、またはその他のインストール設定の編集方法については、Novell SLES 11 のドキュメントを参照してください。

- 「パッケージライセンスの確認 (Confirm Package License)」画面が表示されます。
12. 「パッケージライセンスの確認 (Confirm Package License)」画面で、次の手順を実行します。
 - 使用許諾契約を読みます。
 - 「同意する (I Agree)」をクリックします。
 - 「インストール (Install)」をクリックします。「インストールの確認 (Confirm Installation)」ダイアログが表示されます。
 13. 「インストールの確認 (Confirm Installation)」ダイアログで、メッセージを読み、「インストール (Install)」をクリックしてインストールを開始します。
「インストールの実行 (Perform Installation)」ダイアログが表示されます。



14. SLES 11 OS のすべてのファイルがインストールされてシステムが再起動されるまで、インストールの基本設定を続行します。
15. 基本的なインストールの設定が完了したら、SLES 11 ドキュメントを参照して次の作業を実行します。
 - a. 使用するアカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワークの設定を行い、テストします。
 - c. OS を登録して、利用できる最新のアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。
16. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

詳細は、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した SLES 11 のインストール

ここでは、PXE ネットワーク環境から SLES 11 を起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- SLES 11 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 11 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を利用すると、SLES オペレーティングシステムを複数のシステムにインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールの準備方法については、次の Web サイトにある Novell SUSE のマニュアルセットを参照してください。

(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

インストールを開始する前に

PXE ネットワーク起動環境から SLES 11 インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- AutoYaST を使用してインストールを行う場合は、次の操作が必要です。
 - AutoYaST プロファイルを作成します。
SUSE Linux Enterprise (10 または 11) ドキュメントの AutoYaST インストール手順に従います。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4470 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

SUSE Linux Enterprise のドキュメントにある、ネットワーク経由での SUSE メディア起動のための設定手順に従います。

この手順の完了後、[32 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)で説明する作業が必要となる場合があります。

▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 11 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、SLES のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源を入れ直します。
例:
 - ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
 - ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
 - サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されている PXE インストール起動デバイス (物理ポート) を選択して、Enter キーを押します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。タイムアウトしてインストールカーネルの読み込みが開始されるまで 5 秒待ちます。最初の SUSE Linux 起動画面が表示されます。
5. インストールを続行するには、[23 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」](#)の手順 5 を参照してください。

SLES のインストール後の作業

SLES 11 のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- 32 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」
- 33 ページの「TPM のサポートの設定」

SLES オペレーティングシステムの更新

SLES OS のインストールメディアには、最新バージョンのオペレーティングシステムが含まれていない場合があります。次の手順では、サーバーの SLES OS を更新する方法について説明します。

▼ SLES オペレーティングシステムの更新

1. SLES サーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

YaST はテキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。
3. サーバーがネットワークファイアウォールで保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、まず正しいプロキシ情報で YaST を設定します。
 - a. 「ネットワークサービス (Network Services)」タブを選択してから、右側の「プロキシ (Proxy)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシの URL を入力します。

注 - ネットワーク HTTP または HTTPS プロキシを介してオンラインアップデートサービスを正常に機能させるために、次の設定手順を実行します。

- b. YaST ユーティリティを終了して、次のコマンドを実行します。

```
run set-prefs proxy-url proxy_URL
```

proxy_URL は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (たとえば、`http://proxy.yourdomain:3128/`)。
- c. コマンドの実行の成功後に、YaST を再度起動します。

4. Novell Customer Center に登録します。

注 – Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。

- a. 「ソフトウェア (Software)」タブを選択します。
 - b. 「Novell Customer Center の設定 (Novell Customer Center Configuration)」を選択し、指示に従います。
5. 登録後、「オンラインアップデート (Online Update)」タブを選択して、ソフトウェアのアップデートを実行します。

TPM のサポートの設定

SLES に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするように Sun Fire X4470 サーバーを設定する必要があります。手順については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) で TPM のサポートの設定に関する情報を参照してください。

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、SUSE Linux Enterprise Server に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

第5章

Red Hat Enterprise Linux のインストール

この章では、x86 (64 ビット) 用の Red Hat Enterprise Linux 5 をサーバーにインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに Red Hat Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。SIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、を参照してください。 [第 1 章](#)。

この章では、次の項目について説明します。

- [36 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール」
- [40 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5 のインストール」
- [42 ページ](#)の「RHEL のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール

次の手順では、RHEL 5 オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL 5.5 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.5 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[40 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5 のインストール」](#) で手順を確認してください。

RHEL のインストール方法については、次の Web サイトで RHEL マニュアルセットを参照してください。 (<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[42 ページの「RHEL のインストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Red Hat 5.5 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。Red Hat 5.5 ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー -> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアをセットアップする方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「起動 (Boot)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、RHEL 5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

6. 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。
「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面が表示されます。
7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で、適切なインストール方法 (「Local CDRom」または「NFS Image」) を選択し、「OK」をクリックします。
「CD が見つかりました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD が見つかりました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Red Hat Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Red Hat Enterprise 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。
11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、インストール番号を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「Remove Linux partition on selected drives and create default layout (選択したドライブの linux パーティションを削除して、デフォルトのレイアウトを作成)」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout (カスタムレイアウトを作成)」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「Next (次へ)」をクリックします。



Installation requires partitioning of your hard drive. By default, a partitioning layout is chosen which is reasonable for most users. You can either choose to use this or create your own.

Remove linux partitions on selected drives and create default layout.

Select the drive(s) to use for this installation.

hda 5114 MB VMware Virtual IDE Hard Drive

+ Advanced storage configuration

Review and modify partitioning layout

Release Notes

Back

Next

- b. Red Hat のディスクパーティション設定の画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Solaris OS がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

13. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。
14. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. システムで自動更新を設定します。
詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - b. 必要な場合は、RHEL 5.5 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。
詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
[42 ページの「RHEL のインストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL 5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から RHEL 5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL 5.5 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.5 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。これを使用すると、通常は一般的な Red Hat のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

インストールを開始する前に

RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の KickStart インストール手順に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4470 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の PXE ネットワークのインストール手順に従ってください。

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL 5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」オプションを選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されているネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、[37 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL 5 のインストール」の手順 5](#) を参照してください。

RHEL のインストール後の作業

RHEL のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 42 ページの「RHEL の登録と自動更新の有効化」
- 42 ページの「TPM サポートの設定」

RHEL の登録と自動更新の有効化

RHEL のインストール後、RHEL サブスクリプションを有効にして、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、Red Hat Linux のサポート。
(<http://www.redhat.com/apps/support/>)

TPM サポートの設定

SLES に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするように Sun Fire X4470 サーバーを設定する必要があります。手順については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) で TPM の設定サポート情報を参照してください。

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できます。この機能の実装については、RHEL に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

部 II Linux システム管理者のための参照情報

必要に応じて次のシステム管理者リファレンスを参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了してください。

| 説明 | リンク |
|--|--|
| Linux インストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択およびセットアップ手順 | 付録 A インストール方法 |
| 本書の発行時点で Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト | 付録 B サポートされているオペレーティングシステム |
| Linux のインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順 | 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定 |
| Sun Fire X4470 サーバーの Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードする手順 | 付録 D Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード |

付録 A

サポートされるインストール方法

サーバーに Linux をインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- 45 ページの「コンソール出力」
- 46 ページの「インストール起動メディア」
- 49 ページの「インストール先」

コンソール出力

表 A-1 に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を取得できるコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

| コンソール | 説明 | セットアップ要件 |
|-----------|--|---|
| ローカルコンソール | <p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• シリアルコンソール• VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用) | <ol style="list-style-type: none">1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) の「Attaching Devices」を参照してください。(821-0703)。2. ILOM プロンプトで、ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアル接続の場合のみ、<code>start /SP/console</code> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 サーバー SP への接続を確立する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。 |

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション (続き)

| コンソール | 説明 | セットアップ要件 |
|-----------|---|--|
| リモートコンソール | <p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 | <ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。詳細は、『Sun Fire X4470 サーバー設置マニュアル』(821-2370) を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP 間の接続を表示または確立します。 <ul style="list-style-type: none"> • Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) ILOM Web インタフェースにログインします。3) ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「デバイス (Device)」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 • SSH クライアント 接続の場合は、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1) シリアルコンソールから、サーバー SP (ssh root @ipaddress) への SSH 接続を確立します。2) ILOM にログインします。3) start /SP/console と入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP とのリモート接続を確立する方法または ILOM リモートコンソールの使用方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください</p> |

インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースに必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア

| インストールメディア | 説明 | セットアップ要件 |
|------------|---|--|
| ローカル起動メディア | <p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア | <ol style="list-style-type: none"> 1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。 2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703)の「Attaching Devices」を参照してください。 |
| リモート起動メディア | <p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライバメディア 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) | <p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを確認します。 デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。 2. サーバーの ILOM SP に Web ベースのクライアント接続を確立し、ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。 3. ILOM リモートコンソールアプリケーションの「デバイス (Device)」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 CD/DVD-ROM ISO イメージの起動メディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 フロッピーイメージのデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。 <p>ILOM リモートコンソールの詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370)を参照してください。</p> |

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア (続き)

| インストールメディア | 説明 | セットアップ要件 |
|---------------------|---|--|
| リモート起動 メディア (続き) | <p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p> | <p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE 起動経路でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。 自動 OS インストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して指定する必要があります。例: - Solaris Jumpstart イメージ - SLES AutoYAST イメージ - Windows WDS イメージ インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。 3. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。詳細は、このガイドで前述した PXE ベースのオペレーティングシステムインストール手順を参照してください。 |

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

| インストール先 | 説明 | セットアップ要件 | サポートされる OS |
|--|--|---|---|
| ローカルストレージドライブ ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または 半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) | オペレーティングシステムは、モジュールに設置された任意のストレージドライブを選択してインストールできます。 | <ul style="list-style-type: none">• HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の取り付けおよび電源の投入方法については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。 | <ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、サポートされているすべてのオペレーティングシステム。 |
| ファイバチャネル (Fibre Channel、FC) Storage Area Network (SAN) デバイス | ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) が搭載されているサーバーでは、外付けの FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。 | <ul style="list-style-type: none">• サーバーに FC PCIe HBA が正しく設置されていることを確認します。 PCIe SAS HBA オプションの設置については、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。 手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。 | <ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、すべてのオペレーティングシステム。 |

付録 B

サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 B-1 に、このドキュメントの発行時に Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4470 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新リストについては、Sun Fire X4470 サーバーの Web サイトにアクセスして、オペレーティングシステムのリンクに移動してください。

(<http://www.oracle.com/goto/x4470>)

サポートされているオペレーティングシステム

Sun Fire X4470 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のリリースのインストールおよび使用をサポートしています。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

| オペレーティングシステム | サポートされているバージョン | 追加情報 |
|--------------|--|---|
| Windows | <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Datacenter Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Datacenter Edition (64 ビット) | <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4470 サーバーインストールガイド (Windows オペレーティングシステム)』 (821-2376) |
| Linux | <ul style="list-style-type: none">• Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.5 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 (64 ビット)• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.5 (64 ビット) | <ul style="list-style-type: none">• 第 3 章 OEL のインストール• 第 4 章 SLES のインストール• 第 5 章 RHEL のインストール |
| Solaris | <ul style="list-style-type: none">• Oracle Solaris 10 10/09 | <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4470 サーバー Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-2373) |
| 仮想マシンソフトウェア | <ul style="list-style-type: none">• Oracle VM 2.2• VMware ESX Server 4.0 Update 1• VMware ESXi Server 4.0 Update 1 | <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4470 サーバー仮想マシンソフトウェアインストールガイド』 (821-2382) |

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ストレージドライブに新しいオペレーティングシステムをインストールする場合は、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- 起動順序

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4470 Server Service Manual』(821-0703) を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[45 ページの「OS インストールを実行する際のコンソールオプション」](#) を参照してください。

▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源を入れ直します。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **ローカルサーバー**の前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。

BIOS 画面が表示されます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

- a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「取り消し (Cancel)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
 - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「起動 (Boot)」メニューを選択します。

「起動設定 (Boot Settings)」メニューが表示されます。
6. 「起動設定 (Boot Settings)」メニューで、下矢印キーを使用して「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」を選択し、Enter キーを押します。

「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度がもっとも高いデバイスです。
7. 「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - b. 「オプション (Options)」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

注 – 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

「Boot」メニューおよび「Options」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 キーを押します。

または、「終了 (Exit)」メニューで「保存 (Save)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

注 – ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。コンソールの一番上で使用できる「キーボード (Keyboard)」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

付録 D

Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

サーバーに Tools and Drivers DVD が付属していない場合、またはサーバー付属の Tools and Drivers DVD にサーバー用の最新のツールとファームウェアが含まれているかどうかを確認する必要がある場合は、この付録のダウンロード手順を使用します。

ISO イメージのダウンロード手順

Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

▼ Tools and Drivers DVD イメージのダウンロード

1. Sun Fire X4470 サーバーの Web サイトにアクセスし、Tools and Driver DVD のダウンロードリンクに移動します。
<http://www.oracle.com/goto/x4470>
2. Tools and Drivers DVD の ISO イメージを選択して、アクセス可能なネットワーク上の場所またはローカルストレージ上にダウンロードします。
3. 次のいずれかの方法を使用して、ISO イメージをインストールする準備を行います。
 - リモート KVM (ILOM リモートコンソール) を使用して、ISO イメージをマウントします。
 - 他社のソフトウェアを使用して、Tools and Drivers DVD を作成します。

索引

A

AutoYaST
SLES OS, 30

B

BIOS
出荷時のデフォルト設定の確認, 53
新規インストール時の設定の検証, 7
設定の編集および表示手順, 54

L

Linux OS
RAID ボリュームのディスク要件, 6
インストールの前提条件, 6
サポートされているオペレーティングシステム, 6

O

OEL OS
PXE ネットワークインストール, 17
インストール後の作業, 19
インストール方法, 12
サーバーの電源のリセット, 13
自動更新, 16
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 12
自動更新, 19
Oracle Enterprise Linux
「OEL OS」を参照

P

PXE インストール
OEL OS, 18
RHEL OS, 41
SLES OS, 31

R

RedHat Enterprise Linux
「RHEL OS」を参照
RHEL OS
ILOM Web インタフェース, 41
PXE ネットワークインストール, 40
インストール後の作業, 42
インストール方法, 36
サーバーの電源のリセット
サポートされるインタフェース, 37
自動更新, 39
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 36
一時起動デバイス, 41

S

server
サーバーの電源のリセット, 23
SIA
ソフトウェアダウンロード URL, 4
ドキュメント URL, 4
概要, 3

SLES OS

- AutoYaST, 30
 - PXE ネットワークインストール, 30
 - PXE ブート, 31
 - SLES 11 のローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 23
 - YaST オンラインアップデート, 32
 - アップデート, 32
 - インストール後の作業, 32
 - インストール方法, 22
 - サーバーの電源のリセット, 23, 31
 - ストレージドライバの要件, 7
 - 自動インストールの準備, 30
- SUSE Linux Enterprise Server
「SLES OS」を参照

T

- Tools and Drivers DVD, 7
 - ISO イメージのダウンロード, 57
- Trusted Platform Module (TPM) の設定, 19, 33

い

- インストール後の作業
 - OEL OS, 19
 - RHEL OS, 42
 - SLES OS, 32
- インストール方法
 - サポートされるインストール先, 49
 - サポートされるコンソール出力, 45
 - サポートされる起動メディア, 46

さ

- サポートされているオペレーティングシステム
 - Sun Fire X4470 サーバー, 52
 - 最新リストの URL, 51

し

- 自動更新
 - OEL OS, 16
 - RHEL OS, 39
 - SLES OS, 32

と

- ドキュメント
 - 入手場所, ix